

民國六年秋聞復辭及蒙古之亂

蒼茫獨立小樓中。興廢凄然感不同。邊塞胡笳悲月夜。

山河鼙鼓動秋風。魯連蹈海秦無帝。定遠出疆漢有功。

莫是太平行樂日。林園幾處任飛紅。

同級下村君喜詩索余舊作錄此誌以稿遺在家  
前乃所憶此一首耳能博大方一噓抑亦快事

郭 彝 民

眼を病みて

(六月末湯平温泉に赴きて)

淺 野 正 一

- 今日も亦夕さりにけり我眼痛む夜來るかともへば悲しも
- 夜となれば欄干にでゝ星をみるくす師の勧めぞ物思はなく
- をちの山こちの谷峽影ろひつ夕べあいなく病む眼に迫る
- 此眼の故文も讀みたり字も書きぬと思ひ得堪はずうとましの眼
- うるほへる原の仔牛の眼差しを眼病む身に哀とぞ見る